

We will make a fresh step everyday.

〈にっしん〉

2015年9月仮決算から



彫画:伊藤 太一



<http://www.nisshin-shinkin.co.jp/>

 日新信用金庫

〈にっしん〉もしもしコール

フリーダイヤル イコー ニッシンバンク

 0120-15-2489

(受付時間)平日午前9時から午後5時まで

ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚くお礼申し上げます。
国内経済は、輸出・生産面に新興国経済の減速の影響が見られるものの、緩やかな回復が続いています。国内需要は、設備投資が緩やかな増加基調にあり、個人消費も雇用・所得環境の着実な改善を背景に底堅く推移しています。また、地域経済も消費の回復には地域ごとにばらつきが見られるものの、緩やかに回復しています。

そういった中、平成27年9月末現在の預金残高は7,020億円、貸出金残高は3,014億円となり、当期純利益は、債券売却益も寄与し、1,291百万円計上することができました。また、健全性を示す自己資本比率は11.21%と十分な水準にあります。

仮決算の現況を次ページ以降にグラフを用いて分かりやすくまとめてみましたので、ご一読いただければ幸甚でございます。

わが国は、少子高齢化・人口減少に直面しており、先行き一段と進展していく見通しにあります。こうした環境下、金融機関による地域活性化への取組が強く求められ、中小企業の専門金融機関である信用金庫の役割は一層高まっています。

〈にっしん〉は、地域経済がどのような環境下であろうとも、地域の課題解決型金融の取組みを一層強化し、的確で円滑な資金の提供に努め、地域のお役に立つよう役職員一丸となって懸命に取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



〈明石〉
明石公園



〈神戸〉
布引ハーブ園

〈三木〉
ホースランドパーク

絆（地域とともに持続的発展を）

- 当金庫は、ヴィッセル神戸を応援しています。
- 地域行事等へ積極的に参加しています。



ヴィッセル神戸サッカークリニック開催



©VISSELL KOBE



板宿盆踊り大会（平成27年8月）（板宿支店）

お客さまの安心・安全のための取り組み

- 振り込め詐欺による被害を未然に防止しました。（本店営業部）



明石警察署からの表彰式



兵庫県警生活安全課からの表彰式

地域活動・応援活動

【明石市子育ておうえん定期預金】

募集残高の0.01%相当額を明石市の「明石市子ども基金」へ寄付し、「こども夢文庫」等の運営に活用していただきます。
（明石市内の10店舗）
取扱期間
平成27年8月3日～平成28年2月29日



【にっしん経営塾】

兵庫県立大学から講師を招き、当庫取引先の若手経営者や次世代を担う後継者の方などを対象に「にっしん経営塾」を明石地区、神戸地区、三木地区の3地区で実施しています。



（産学公人材イノベーション推進協議会の活動から）

『にっしん輝きメッセ2015』を開催しました！

- 国際フロンティア産業メッセ2015の会場で、「にっしん輝きメッセ2015」を開催し、当金庫を含む11社（12ブース）が出展しました。大勢の方にお越しいただき、盛会となりました！



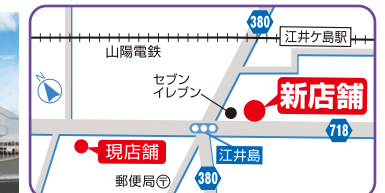
（9月3日、4日の2日間にわたり、神戸国際展示場（ポートアイランド）で開催）

店 舗

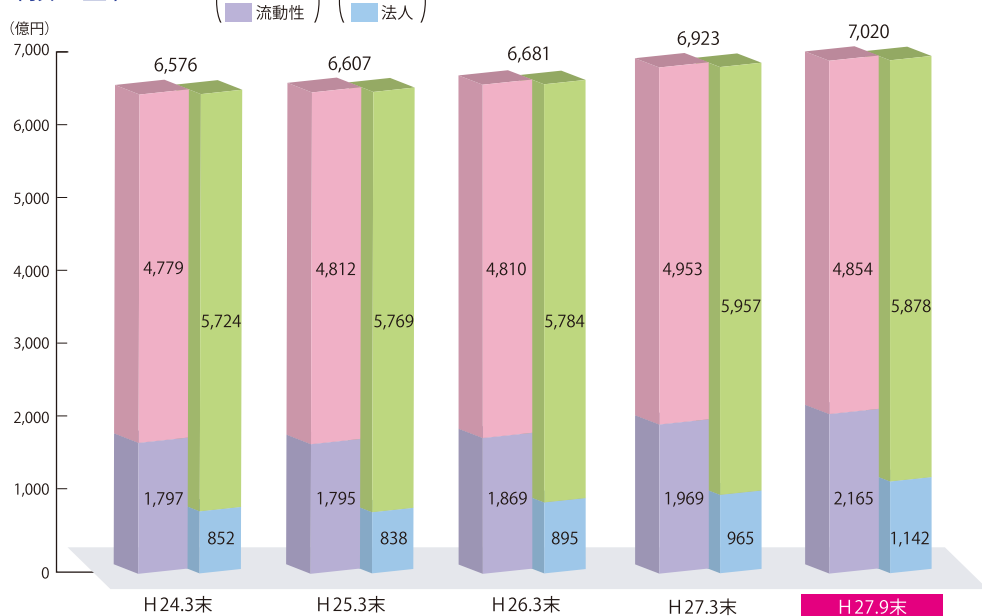
- 江井ヶ島支店
平成28年3月
新築オープン予定



建物完成予定図



〈預金〉



【預金】

預金は平成27年3月末対比で97億円の増加となっておりますが、3月末は地方公共団体等の預金が毎年引き出されるという特殊事情があり、実際は減少となっております。この要因は定期預金が減少したためであります。

流動性預金については法人、個人とも増加傾向にあり、これは日常でのお取引が増えてきているためであります。今後も一層工夫を凝らし地域の皆様に喜んでいただけるよう努めてまいります。

【貸出金】

貸出金は平成27年9月末3,014億円で3月末対比横ばいとなりました。兵庫県内の経済情勢は持ち直しつつあるものの設備投資をはじめとした前向きな資金需要においては依然として低調な状況にあります。

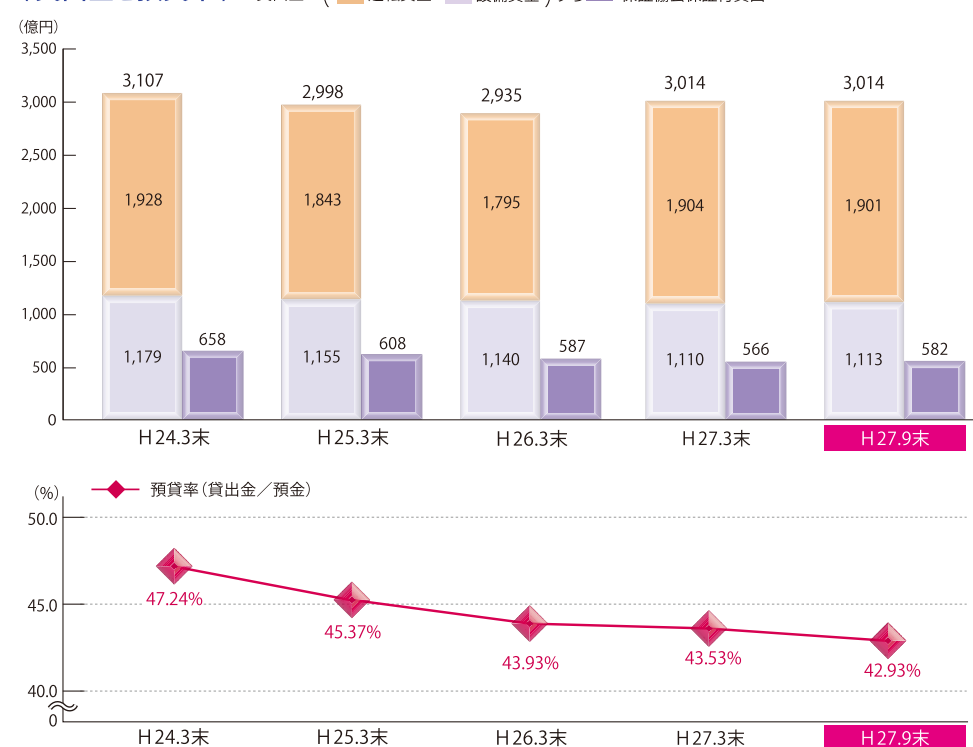
保証協会付融資については減少傾向から増加に転じることが出来ました。今後も地域の皆様のお役に立てるよう的確な資金供給に努めてまいります。

【業種別構成比】

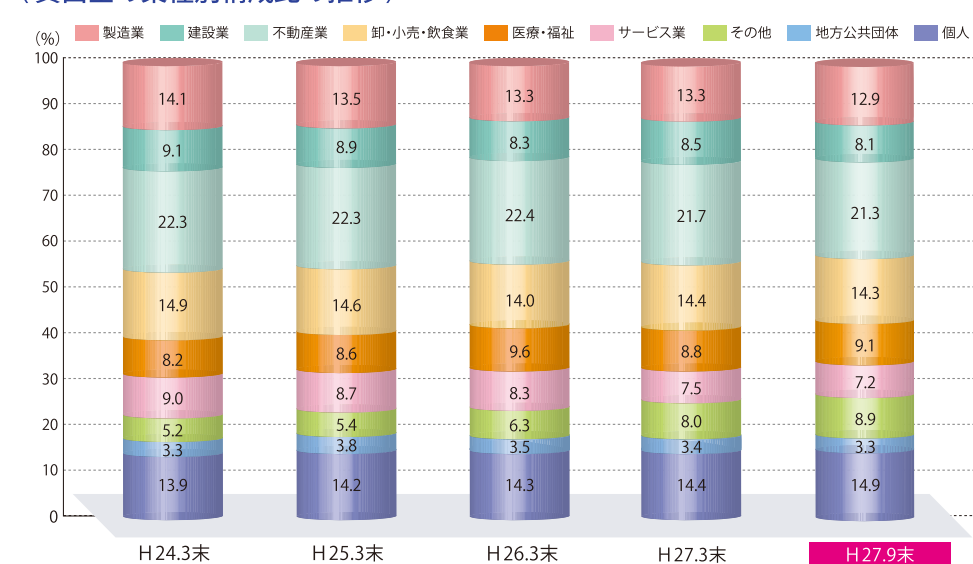
当金庫の貸出金の業種別構成比の内訳を見ると、不動産業及び製造業の割合は平成27年3月末対比で僅かながら減少が見られる一方、医療・福祉業に関しては約0.3%増加しています。

個人向け貸出金については、住宅ローン、カードローンを中心に営業展開を行った結果、総貸出金に占める構成比の割合が平成27年3月末対比で0.5%増加しています。

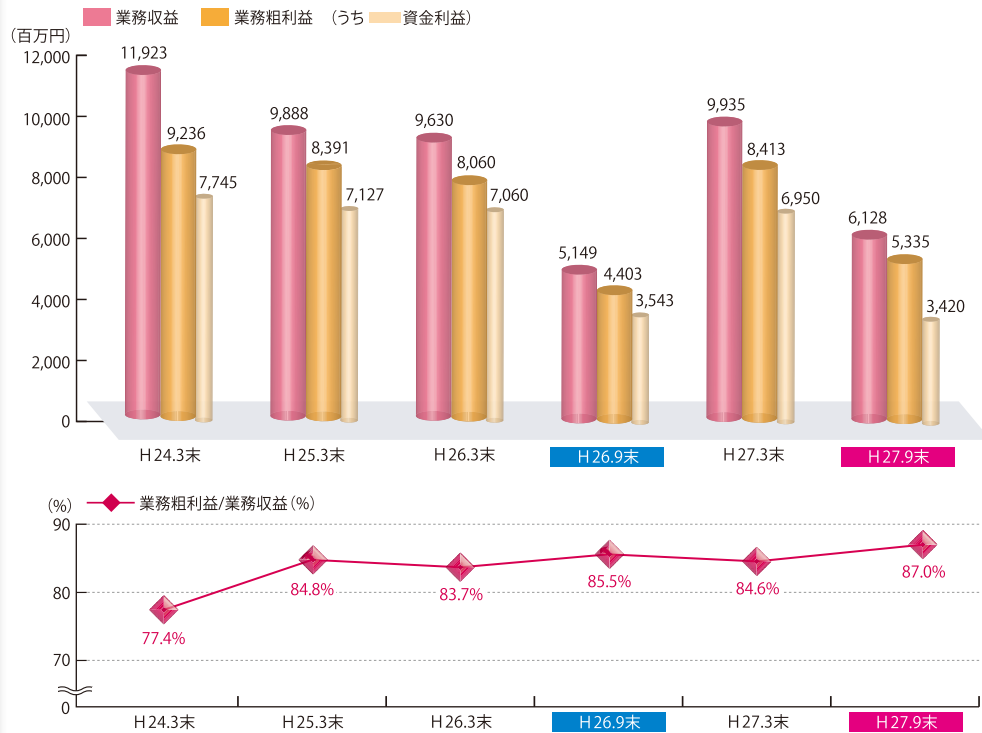
〈貸出金と預貸率〉



〈貸出金の業種別構成比の推移〉

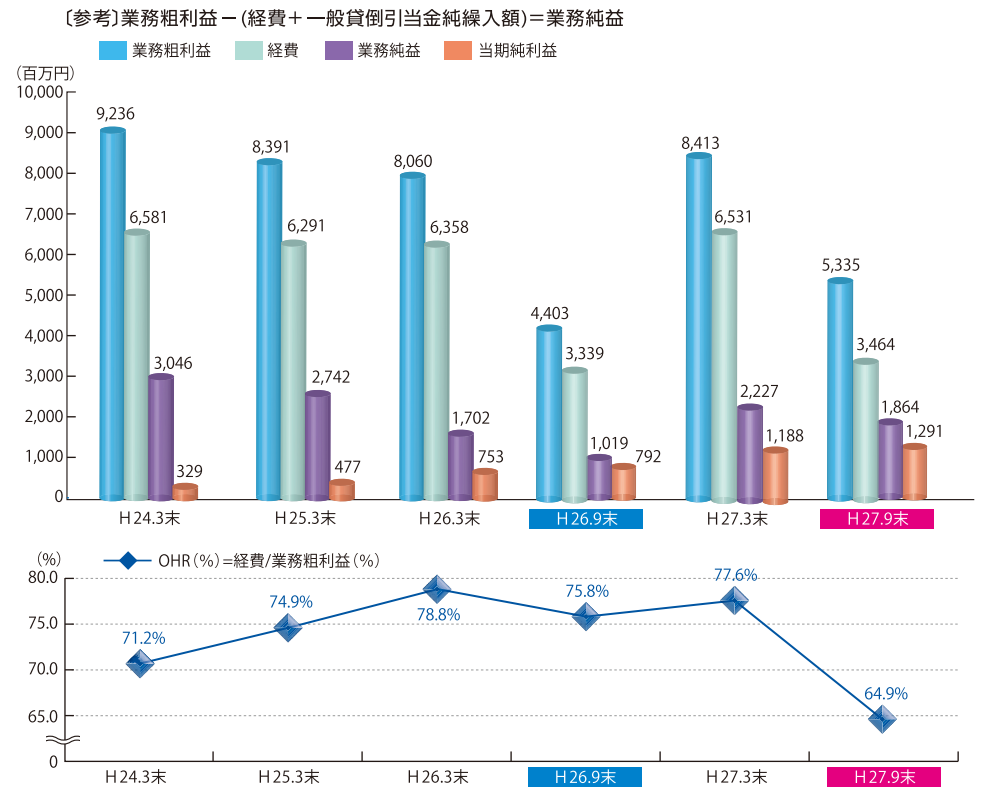


〈業務収益、業務粗利益(うち資金利益)〉



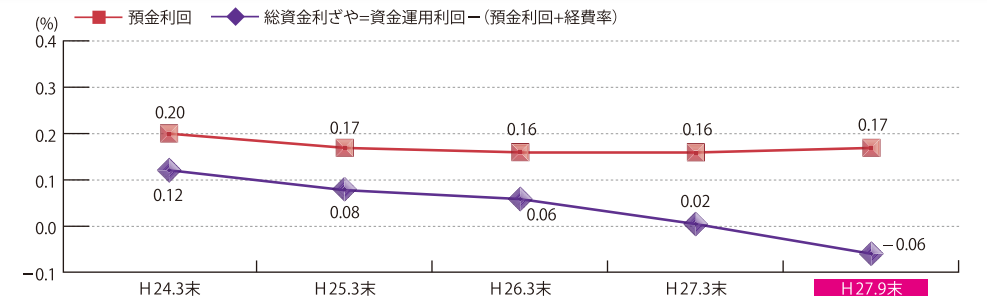
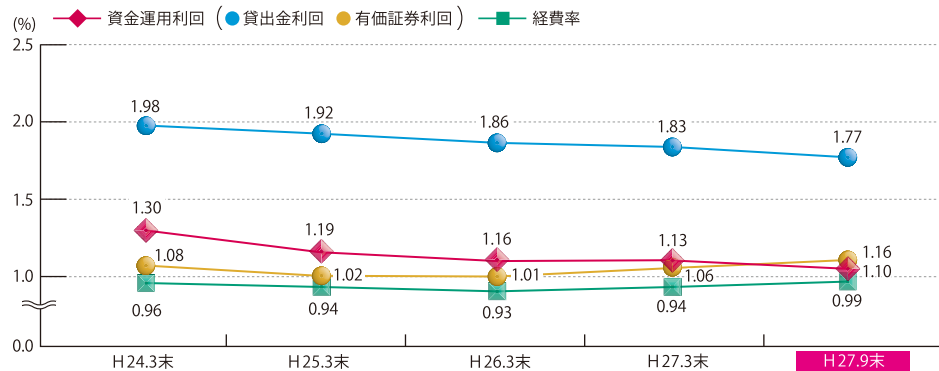
一般企業の売上に当たる業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役員取引収入等)は、有価証券売却益が寄与し、前年同期に比べて979百万円の増収となりました。業務粗利益(業務収益-預金利息等の原価)は、業務収益が増加したため前年同期に比べて931百万円の増益となりました。資金利益(貸出金と有価証券運用から発生する利益-預金支払い利息)は、前年同期に比べて123百万円減少しました。これは、貸出金金利の低下と市場金利の低下が主な要因です。

〈業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益-経費等)、当期純利益〉



経費は、しんきん共同センター移行に関する費用等により前年同期に比べて125百万円増加したものの、業務粗利益の増加により、業務純益は前年同期に比べて845百万円の増加となりました。当期純利益は、前年同期に比べて499百万円増加しました。

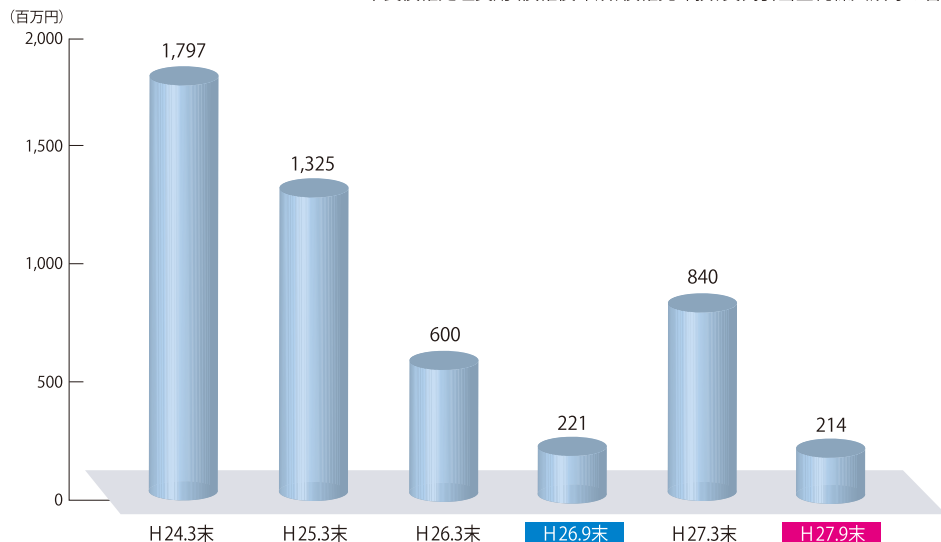
〈資金運用利回(貸出金利回、有価証券利回)、預金利回、経費率、利ざや〉



有価証券利回は外国債の購入や長期有価証券への投資の増加により上昇しましたが、貸出金利回は依然として低下傾向にあります。資金運用利回は前年度末に比べて低下しました。しんきん共同センター移行に関する経費増加により経費率が上昇し、預金利回も上昇したことから、総資金利ざやはマイナス0.06%となりました。一層、収益力の向上に努めてまいります。

〈貸出金にかかる不良債権処理費用等〉

*不良債権処理費用(債権償却額、債権売却損、貸倒引当金純繰入額等の合計)



貸出金にかかる不良債権処理費用等とは、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金純繰入額、債権償却額等の合計です。すなわち、将来の発生を見込んで現時点で算定した損失見込額及び回収不能となって確定した損失額の合計額です。

平成27年度上期は目立った不良債権の発生はありません。平成27年9月末の不良債権処理費用214百万円は、不動産鑑定評価の評価率見直しにより、積極的に引当をおこなったものです。

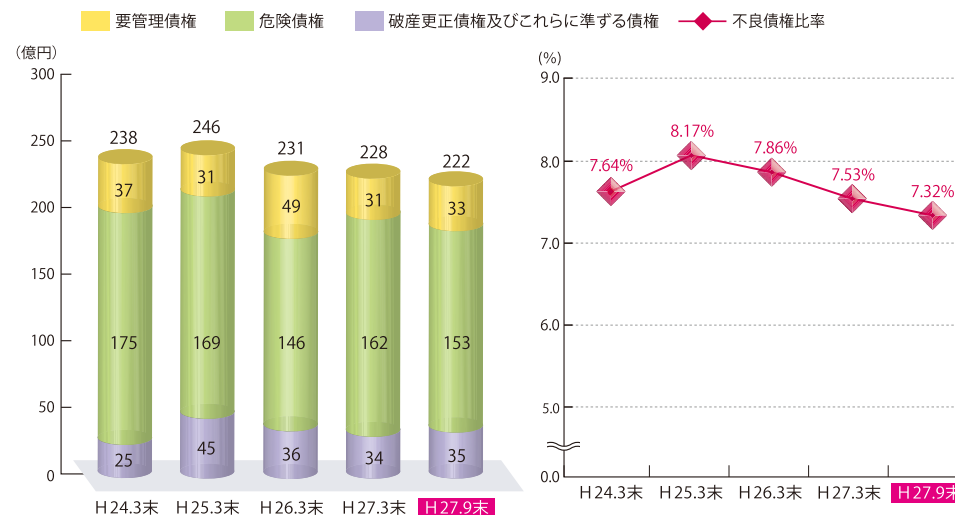
貸出債権の不良化を防ぐため、経営改善支援や融資審査などの強化に全力で取り組んでまいります。同時に、将来のために引当も十分に行ってまいります。

〈不良債権(要管理先を除く)の保全状況〉

平成27年9月末現在の不良債権(要管理債権を除く)は188億円あります。その保全状況は右の通りです。

貸倒引当金は43億円積んでおり、会計上43億円は損失処理済です。優良担保・保証(保証協会保証等)で保全されている額が78億円、一般担保(土地・建物等)・保証で保全されている額が38億円、合わせて160億円は回収が確実であると見込んでいる額です。残りの27億円は、これまでの回収実績等から見て回収可能と見込まれる額です。

〈不良債権〔金融再生法上の開示債権〕の内訳と不良債権比率〉

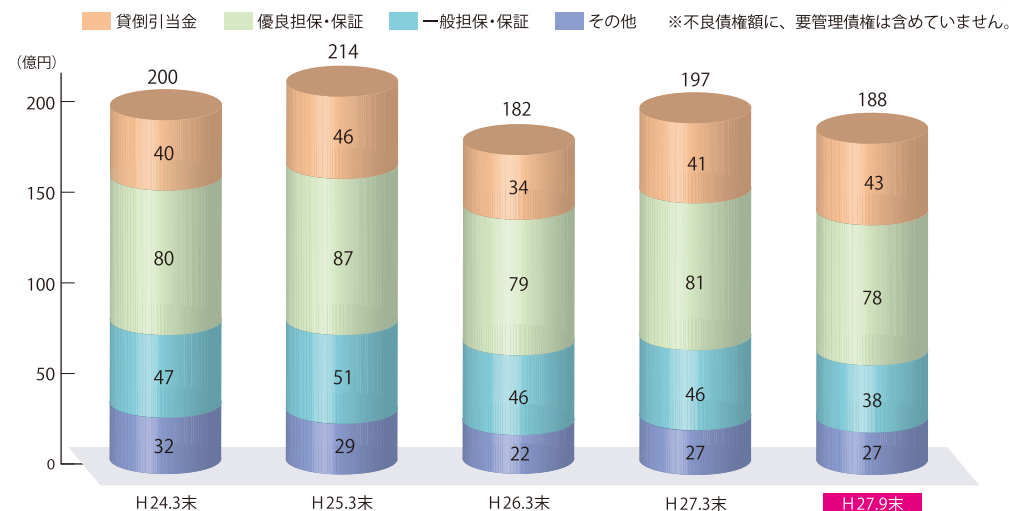


不良債権は、要管理債権、危険債権、及び破産更生等債権に分類されます。

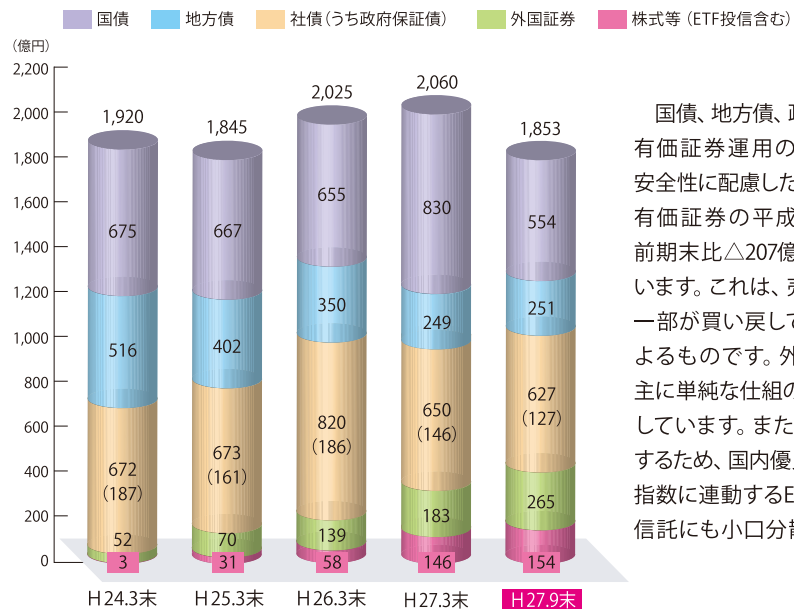
ここ数年不良債権残高及び不良債権比率は低下傾向にあるものの、まだ高い水準にあります。

課題は危険債権をいかに減少させるかです。融資先の経営悪化を防ぎつつ、経営改善の支援に全力を注いでまいります。

破産更生等債権は、未保全額に相当する額を個別貸倒引当金として計上しますので、会計上は損失処理済みであります。あとは処理を行っていくことになります。

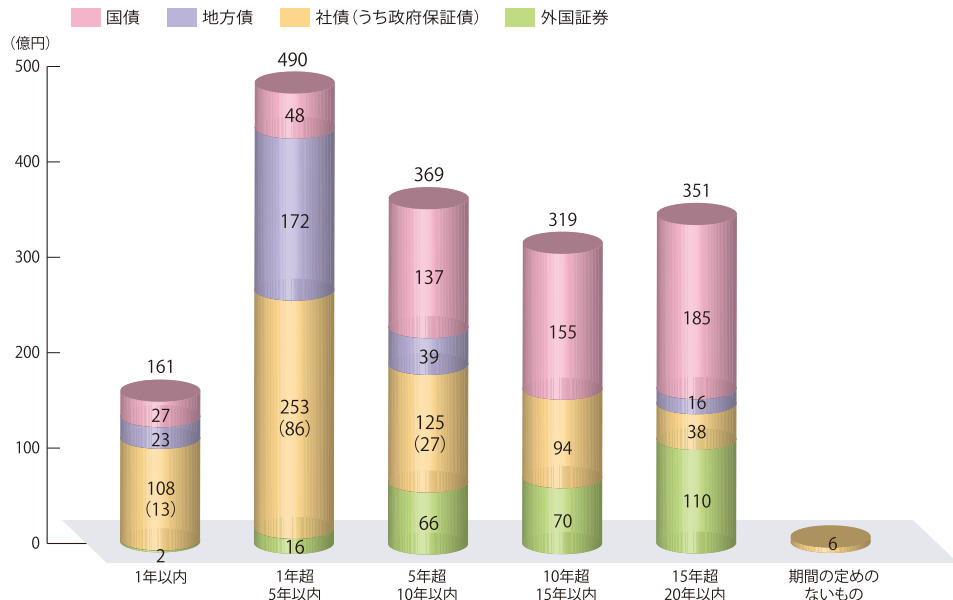


〈有価証券の種類別保有状況(期末残高)〉



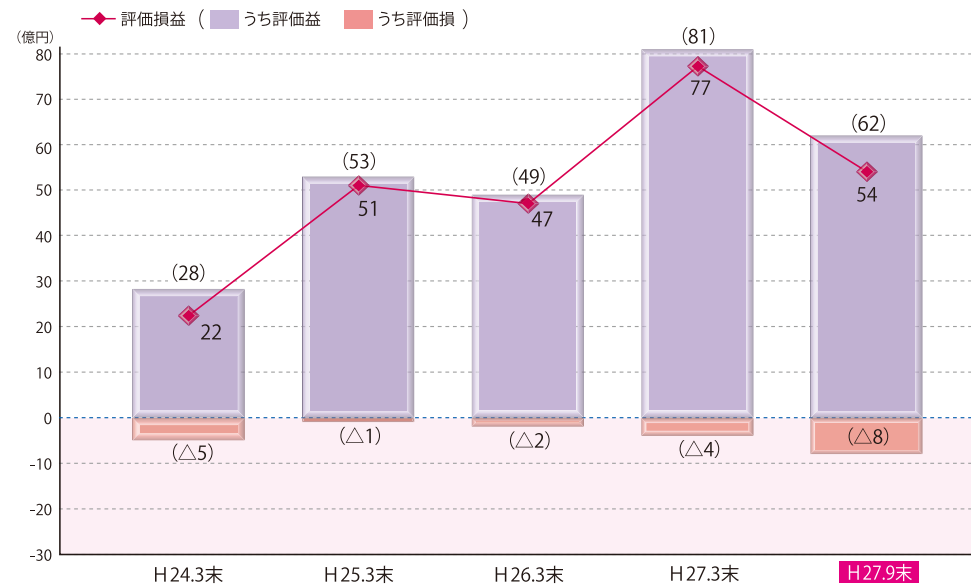
国債、地方債、政府保証債を併せて有価証券運用の50%を占めており、安全性に配慮した運用を行っています。有価証券の平成27年9月末残高は前期末比△207億円と大幅に減少しています。これは、売却した有価証券の一部が買い戻しできていないことによるものです。外国証券については主に単純な仕組の変動利付債に投資しています。また、金利リスクを回避するため、国内優良銘柄の株式、株価指数に連動するETF及びその他投資信託にも小口分散投資しています。

〈債券(償還までの期間別に見た残高)、平成27年9月30日現在〉



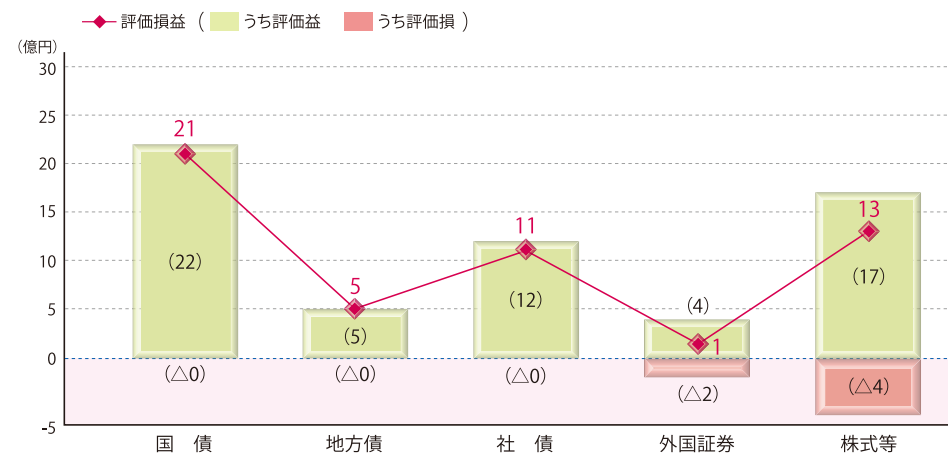
有価証券のうち株式を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したものです。収益向上のため、期間10年超20年以内の国債、社債、外国証券にも投資しています。

〈有価証券の評価損益の推移〉



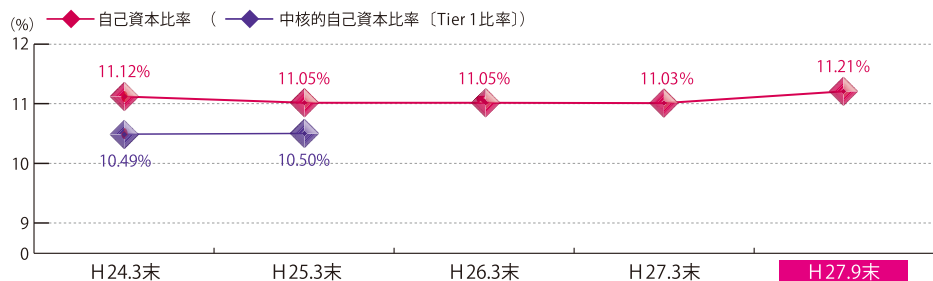
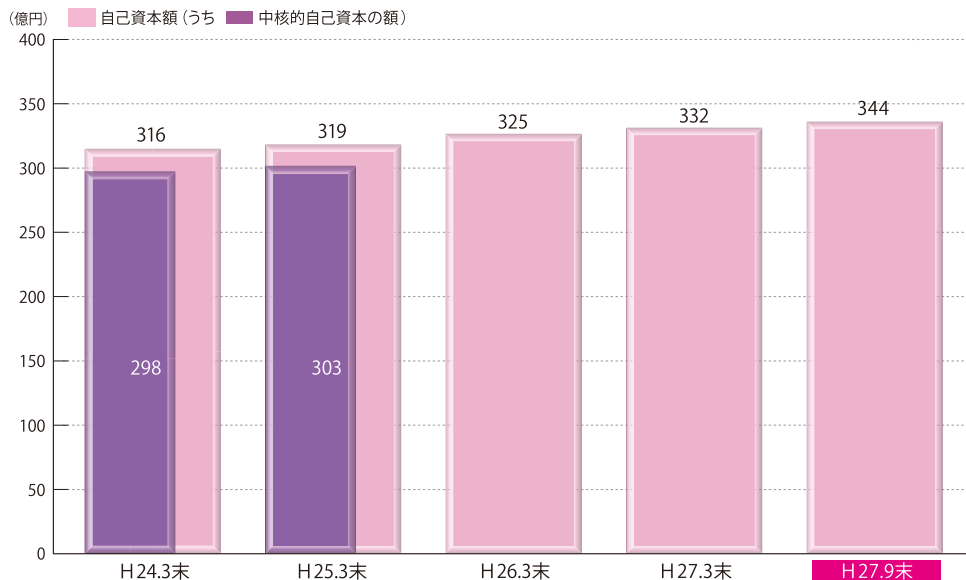
平成27年9月末現在、有価証券の評価益は62億円、評価損は8億円です。有価証券全体で差引54億円の評価益となっています。

〈有価証券の種類別の評価損益(平成27年9月30日現在)〉



平成27年9月末現在の有価証券の種類別評価損益を示したグラフです。外国証券と株式等で評価損がありますが、すべての種類で評価損益はプラスとなっています。

〈自己資本と自己資本比率（信用金庫単体）〉



(億円)

	H24.3末	H25.3末	H26.3末	H27.3末	H27.9末
リスクアセット	2,845	2,887	2,946	3,011	3,067

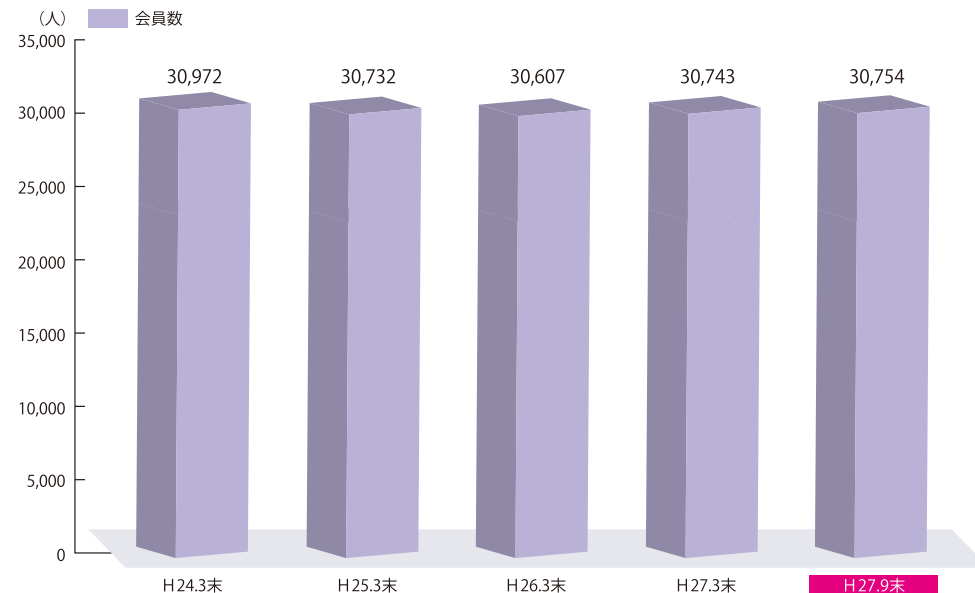
自己資本比率は、平成27年9月末で11.21%となりました。

当金庫の自己資本比率は国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えています。

これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

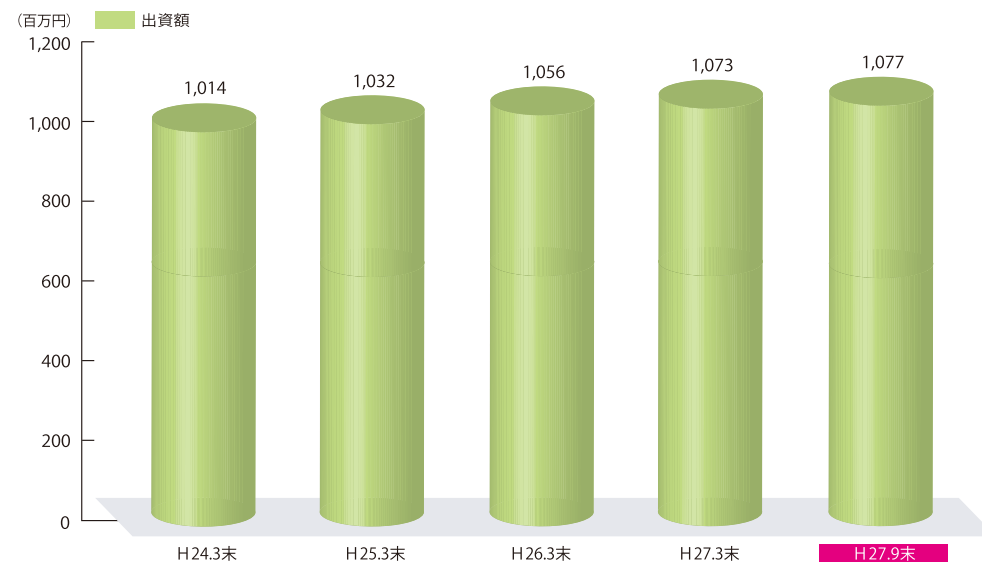
なお、自己資本比率の算出方法を定めた基準（平成18年金融庁告示第21号）が平成25年3月8日に改正され、平成24年度以前は旧告示に基づく開示、平成25年度以降は新告示に基づく開示を行なっています。それにより、平成26年3月期から中核的自己資本比率は記載していません。

〈会員数〉



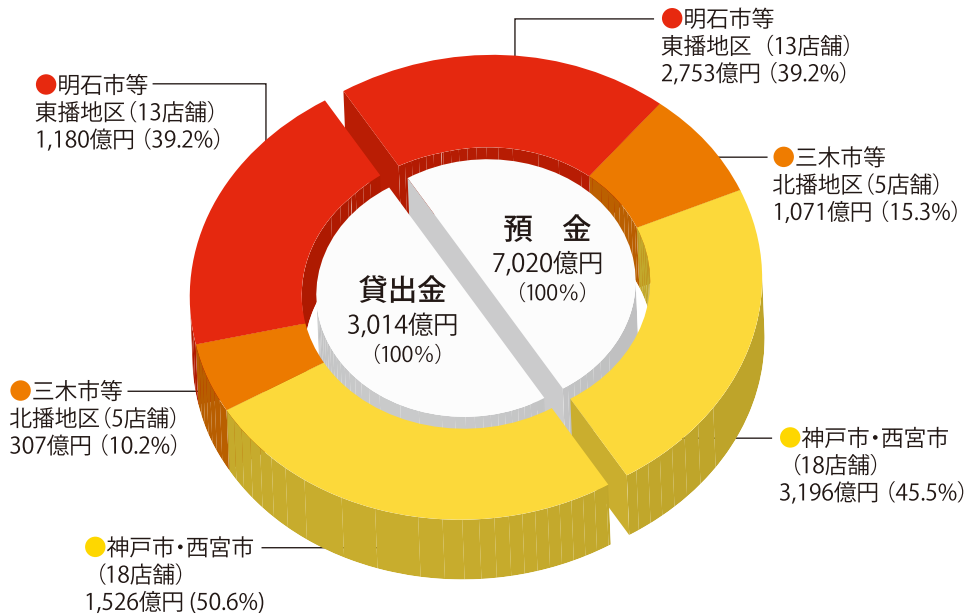
会員数は、昨年度より徐々に増加傾向にあります。

〈出資額〉



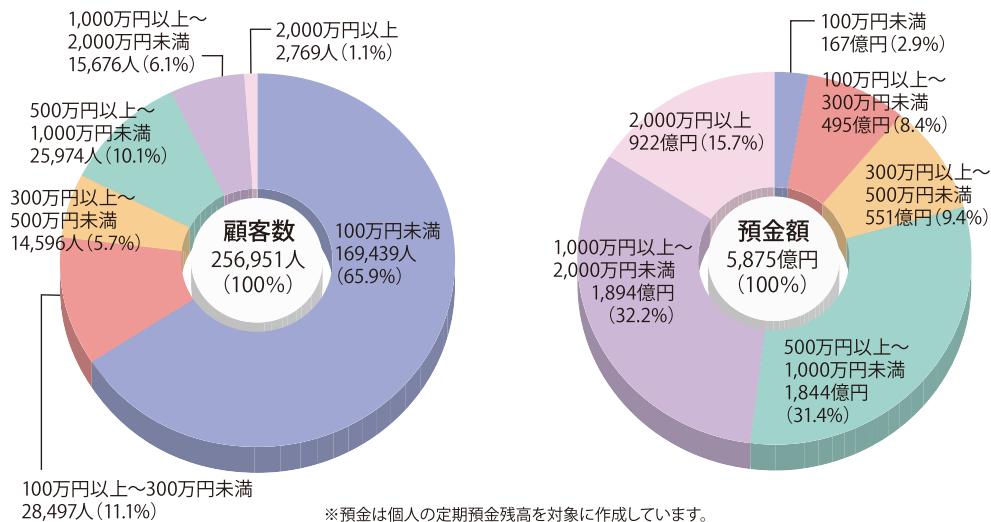
会員数の増加により出資額も増加しました。

〈貸出金・預金の地域別構成〉 (平成27年9月30日現在)

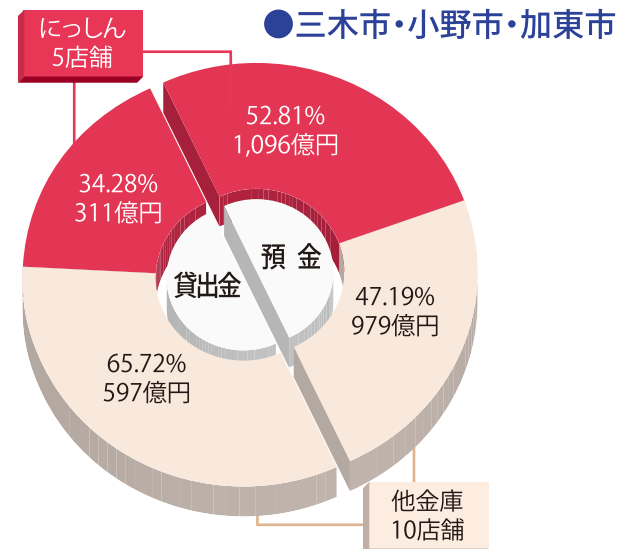
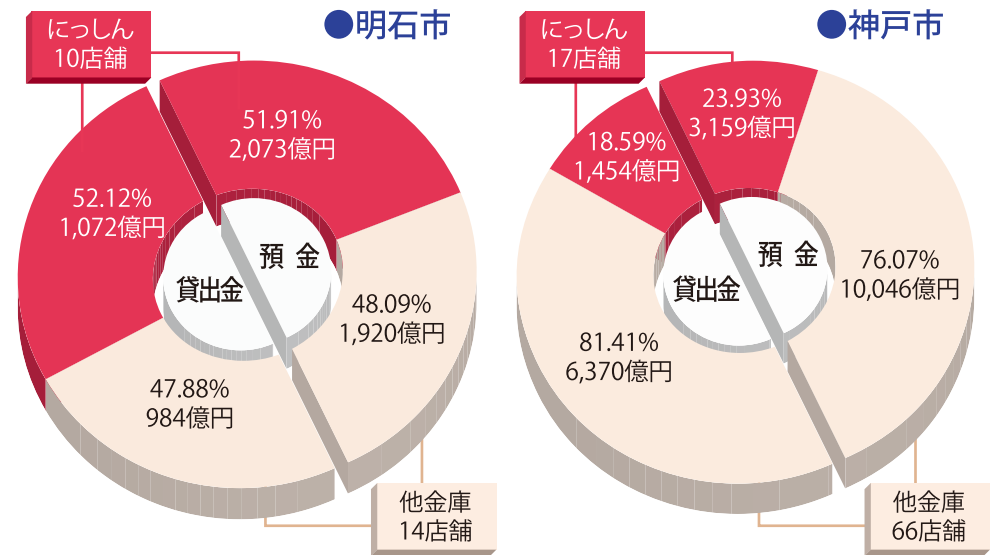


〈預金者のプロフィール〉

〈個人定期預金の残高階層別に見た顧客数と預金額〉 (平成27年9月30日現在)



〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉 (平成27年3月31日現在)



※その他地区(加古川市・高砂市・播磨町・西宮市)預金593億円、貸出金175億円。

1. 資産・負債等の状況

(単位:百万円)

資産の部	平成26年9月末	平成27年9月末	増減	平成27年3月末
現金・預け金	243,476	252,431	8,954	224,491
コールローン	—	—	—	—
有価証券	196,668	185,344	△11,324	206,034
貸出金	292,922	301,465	8,542	301,440
事業性貸出金	240,880	246,622	5,742	247,805
貸倒引当金	△5,093	△5,523	△430	△5,308
うち個別貸倒引当金	△3,572	△4,387	△814	△4,178
資産の部合計	738,300	745,677	7,377	736,774

(単位:百万円)

負債及び純資産の部	平成26年9月末	平成27年9月末	増減	平成27年3月末
預金・積金	696,057	702,071	6,013	692,334
個人預金	584,035	587,863	3,828	595,663
負債の部合計	702,549	708,623	6,074	699,258
出資金	1,060	1,077	17	1,073
利益剰余金	30,732	32,367	1,635	31,129
其他有価証券評価差額金	3,958	3,609	△349	5,313
純資産の部合計	35,751	37,053	1,302	37,516
負債及び純資産の部	738,300	745,677	7,377	736,774

2. 損益の状況

(単位:百万円)

項目	平成26年9月末 (平成26年4月1日～9月30日)	平成27年9月末 (平成27年4月1日～9月30日)	増減
業務粗利益……………②	4,403	5,335	931
うち資金利益	3,543	3,420	△123
うち役員取引等利益	195	191	△4
うちその他業務利益	664	1,723	1,059
一般貸倒引当金繰入額③	45	6	△38
経費……………④	3,339	3,464	124
業務純益……………①	1,019	1,864	845
実質業務純益……………⑤	1,064	1,870	806
臨時損益……………⑦	△20	△92	△72
うち不良債権処理額	153	208	54
うち株式関係損益	0	58	58
経常利益……………⑥	999	1,772	773
特別損益	56	△18	△74
税引前当期純利益……………⑨	1,055	1,753	698
当期純利益……………⑧	792	1,291	499

■主な項目の計算方法

①業務純益 = ②業務粗利益 - ③一般貸倒引当金繰入額 - ④経費

⑤実質業務純益 = ①業務純益 + ③一般貸倒引当金繰入額

⑥経常利益 = ①業務純益 + ⑦臨時損益

⑧当期純利益 = ⑨税引前当期純利益 - 法人税等合計

3. 業種別貸出金の状況

(単位:百万円、%)

内 訳	平成26年9月末		平成27年9月末		残高増減
	残高	構成比	残高	構成比	
製造業	39,793	13.6%	38,920	12.9%	△873
農業・林業	63	0.0%	58	0.0%	△5
漁業	249	0.1%	211	0.1%	△38
鉱業・採石業・砂利採取業	20	0.0%	7	0.0%	△13
建設業	24,138	8.2%	24,337	8.1%	199
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	502	0.2%	—
情報通信業	947	0.3%	1,024	0.3%	77
運輸業・郵便業	11,784	4.0%	11,892	3.9%	108
卸売業・小売業	37,320	12.8%	37,987	12.6%	667
金融業・保険業	5,263	1.8%	13,248	4.4%	7,985
不動産業	65,593	22.4%	64,149	21.3%	△1,444
物品賃貸業	1,261	0.4%	1,522	0.5%	261
学術研究・専門・技術サービス業	1,299	0.4%	1,149	0.4%	△150
宿泊業	1,729	0.6%	1,696	0.6%	△33
飲食業	5,310	1.8%	5,145	1.7%	△165
生活関連サービス業・娯楽業	4,916	1.7%	4,737	1.6%	△179
教育・学習支援業	1,609	0.6%	1,537	0.5%	△72
医療・福祉	27,314	9.3%	27,608	9.1%	294
その他のサービス	12,268	4.2%	10,880	3.6%	△1,388
小 計	240,881	82.2%	246,622	81.8%	5,741
地方公共団体	10,283	3.5%	9,842	3.3%	△441
個人(住宅・消費・納税資金等)	41,758	14.3%	45,001	14.9%	3,243
合 計	292,922	100.0%	301,465	100.0%	8,543

4. 有価証券の状況

有価証券の時価情報

(単位:百万円)

内 訳	平成26年9月末				平成27年9月末			
	時価	評価差額	うち益	うち損	時価	評価差額	うち益	うち損
その他有価証券	171,732	5,484	5,500	15	156,853	4,998	5,592	594
国債	45,837	1,262	1,262	0	44,535	1,604	1,644	39
地方債	30,765	680	680	—	25,185	509	515	6
社債	81,413	2,146	2,158	11	62,760	1,156	1,252	95
うち 政府保証債	16,417	725	725	—	12,784	504	504	0
うち 公社公団債	3,503	52	57	5	5,224	38	46	8
うち 金融債	10,175	67	67	—	10,133	30	30	—
株式	3,125	768	770	2	4,478	1,206	1,308	102
うち子会社・関連会社株式	139	—	—	—	139	—	—	—
その他	10,590	626	628	1	19,893	521	872	350
満期保有目的の債券	25,344	409	532	123	28,893	402	623	220
売買目的有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 評価損益は、9月末日の帳簿価格(償却原価法適用後、減損処理後)と時価の差額を計上しています。

※ 時価は9月末日の市場価格等に基づいています。なお、子会社・関連会社株式、非上場株式、組合出資金については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから当該帳簿価格を時価としています。

5. 決算の状況

(単位:百万円)

項 目	平成26年9月末	平成27年9月末
業 務 純 益	1,019	1,864
経 常 利 益	999	1,772
コア業務純益	419	167
当 期 純 利 益	792	1,291

6. 自己資本の状況

単体自己資本比率

(単位:百万円)

項 目	平成26年9月末	項 目	平成27年9月末
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	31,792	普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	33,444
うち出資金及び資本剰余金の額	1,060	うち出資金及び資本剰余金の額	1,077
うち利益剰余金の額	30,732	うち利益剰余金の額	32,367
うち外部流出予定額(△)	—	うち外部流出予定額(△)	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	1,563	コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	1,179
うち一般貸倒引当金コア資本参入額	1,563	うち一般貸倒引当金コア資本参入額	1,179
コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	33,356	コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	34,624
コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	—	コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	217
自己資本の額(C-D) …… (E)	33,356	自己資本の額(C-D) …… (E)	34,406
リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	302,277	リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	306,790
単体自己資本比率(E)/(F)	11.03%	単体自己資本比率(E)/(F)	11.21%

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出を行なっています。なお、当金庫は国内基準を採用しています。

■ 本誌では、単体未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。
■ 本誌に掲載している計数については、会計監査人による監査を受けていません。

7. 自己資本の構成(単体)

(単位:百万円)

項 目	平成27年3月末	経過措置による不算入額	平成27年9月末	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目(1)				
普通出資または非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	32,149		33,444	
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,073		1,077	
うち、利益剰余金の額	31,129		32,367	
うち、外部流出予定額	△ 52		—	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,170		1,179	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	1,170		1,179	
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	33,319		34,624	
コア資本に係る調整項目(2)				
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)の合計額	27	108	115	173
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く	27	108	115	173
前払年金費用の額	49	199	101	152
コア資本に係る基礎調整項目の額(ロ)	77		217	
自己資本				
自己資本額(イ)-(ロ)=(ハ)	33,242		34,406	
リスク・アセット等(3)				
信用リスク・アセットの額の合計額	286,824		292,459	
資産(オン・バランス)項目	286,071		291,587	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△ 6,972		△ 6,954	
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)	108		173	
うち、前払年金費用	199		152	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 7,280		△ 7,280	
オフ・バランス取引等項目	682		777	
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	71		95	
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	14,330		14,330	
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	301,154		306,790	
自己資本比率(ハ)/(ニ)	11.03%		11.21%	

● オペレーショナル・リスク「基礎的手法」の算出方法

粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)×15%
直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数 ± 8%

8. 不良債権の状況

金融再生法開示債権残高

(単位:百万円)

区 分	平成26年3月末	平成27年3月末	平成27年9月末(A)	増 減
	債権額	債権額	債権額	増減
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	3,604	3,438	3,538	100
危険債権	14,638	16,272	15,300	-972
要管理債権	4,937	3,122	3,381	259
不良債権合計	23,181	22,833	22,220	-613
正常債権	271,759	280,057	281,088	1,031
合 計	294,940	302,891	303,308	417
不良債権比率	7.860%	7.539%	7.326%	-0.213%

保全状況(平成27年9月末)

(単位:百万円)

区 分	担保・保証額(B)	担保・保証のない部分(C)=(A)-(B)	引当額(D)	(C)に対する引当率(D)/(C)	保全額(E)=(B)+(D)	保全率(E)/(A)
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,946	1,592	1,592	100.00%	3,538	100.00%
危険債権	9,751	5,549	2,774	50.00%	12,526	81.86%
要管理債権	1,376	2,004	227	11.36%	1,604	47.45%
不良債権合計	13,073	9,146	4,594	50.23%	17,668	79.51%

店 舗 一 覧

明石市中央部

本店営業部	明石市本町2-3-20	078(912)4567
明石駅前支店	明石市桜町11-14	078(911)8181
人丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431

明石市西部

西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
江井ヶ島支店	明石市大久保町江井島739-3	078(946)0623
魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221

加古川市・高砂市・播磨町

加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270

三木市・小野市・加東市

三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
天神支店	加東市天神492	0795(47)1011
滝野支店	加東市上滝野2413	0795(48)2010

神戸市東部

本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-6	078(411)3281
六甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431

神戸市中央部

神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078(231)2731
神栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001

神戸市北部

鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-20	078(591)1221
ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489

神戸市西部

垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110

西宮市

西宮今津支店	西宮市今津出在家町1-6	0798(31)2489
--------	--------------	--------------